

社会科学習指導案

令和元年 月 日

第2校時

2年

1 単元名

「九州地方」 ー環境問題・環境保全に向き合う人々の暮らしー

2 考察

(1) 教材観

(2) 本単元にかかわる生徒の実態及び指導方針

3 単元の目標

- 九州地方の地域的特色について、環境問題や環境保全を産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付けて考察させる。
- 持続可能な社会の構築のためには、地域における環境保全の取り組みが大切であることを捉えさせる。

4 評価規準及び指導計画（全5時間予定）

評価規準	関心・意欲・態度	環境保全の視点からみた九州地方の地域的特色に関心をもち、自然環境や人々の生活、産業などと関連させながら、設定した追究テーマを基に意欲的に追究しようとする。							
	思考・表現	環境保全に注目しながら、そこに住む人々の生活や産業の変化などとの関係について、原因と対策、目的と課題の面から考察し、考えたことを自分の言葉で表現できる。							
	技能	九州地方の地域的特色に関する各種の地図やグラフ、写真などを収集し、それらから有用な資料を選択して、それを基に読み取ったり、ワークシートにまとめたりしている。							
	知識・理解	九州地方について、環境問題や環境保全を中核とした考察を基に地域的特色を大まかにとらえ、その知識を身につけている。							
時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動		評価の観点			
		知識・技能など	思考力・表現力など			関	思	技	知
1	つかむ	地図や雨温図を通して、九州地方の自然環境の特徴を捉えている。	九州地方の自然環境や災害報道に関心を持ち、自分なりに感じたことを発表している。	地図や雨温図、写真資料を通して、九州地方の地理的特色を大観する。	◎		○	◎	

2	追 究	九州地方の人口と産業の地域的な違いを、地図を使って読み取っている。	これまでの学習を関連付けて、自分の言葉で追究テーマに対する仮説を立てることができる。	九州地方の人口や産業の地域的な違いを地図から読み取り、設定した追究テーマに対する仮説を立てる。		◎	○	
3		環境保全のために砂防ダムの建設や土壌流出を防ぐ工夫がなされていることを理解している。	自然災害や環境問題を、自然環境の特色や地域開発の動向と関連付けて捉えている。	九州地方をめぐる多様な環境問題と環境保全の取り組みについて、自然環境の特色や地域開発の動向と関連付けて考察する。		◎		○
4		水俣市や福岡市の環境保全の取り組みを知り、身近な地域の環境保全の取り組みと関連付けることができる。	水俣市と福岡市の環境問題の原因と対策を考察し、その共通点を捉えている。	水俣市や福岡市の環境保全に至るまでの取り組みを通して、都市化がもたらした環境問題と、その対策のための工夫を考察する。	○	◎		
5 本 時	ま と め	これまでの地図や写真資料を関連付けて読み取っている。	友達との意見交流を通じて、設定テーマに対する自分の考えをまとめることができる。	北九州市のエコタウンなどを例に、九州地方の環境問題を自然環境や人々の生活と結びつけ、設定テーマに対する自分の考えをまとめる。		◎	○	

5 本時の学習 (5時間計画中の5時間目)

(1) ねらい

九州地方の地域的特色について、環境を視点とした追究テーマを産業や人々の生活などに関連づけて話し合う活動を通して、持続可能な社会の構築には地域における環境保全の取組が大切であることを捉えることができる。

(2) 準備

ワークシート、タブレット、大型テレビ

(3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価
1 本時のめあてを確認する。	5分	・単元のまとめとして、単元をつらぬく学習課題(追究テーマ)を考える授業であることを伝える。
2 追究テーマを再確認し、テーマ設定の際に自分が立てた予想をもう一度振り返る。		・本時のめあてとゴールを明示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 単元の追究テーマ： 九州地方で、環境を守るための取り組みが見られるのはなぜだろう。 </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> めあて 調べてきたことを結び付け追究テーマについて自分の考えをまとめよう </div>		

<p>3 過去の北九州市の写真資料を提示し、北九州市の環境がどのように変化してきたかを読み取らせる。</p> <p>○空がきれいになっている。</p> <p>○陸地が整備されていて、海が汚れていない。</p> <p>4 環境が大きく改善した1980年代までの間に、どんなことが起こったと思うか予想する。</p> <p>○工場生産に制限ができたのではないか。</p> <p>○国が法律を作ったのではないか。</p> <p>○住民が運動を起こしたのではないか。</p> <p>5 2019年（現在）の北九州市の姿を考える。</p> <p>○現在も市民たちが頑張っていることがあるのかな。</p>	<p>8分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1960年代が高度経済成長期であったことを補足しながら変化を読み取らせる。 ・既習の水俣市の公害問題についても想起させる。 ・実際は、一家の母達による婦人会が立ち上がり運動を起こしたことにより、行政・企業が意識を変えていったことを資料や写真から説明する。 ・環境問題を抱えてきた九州地方の現在の姿を知り、現在の九州地方の人々の営みについて興味を持たせる。 ・北九州市エコタウンセンターのパンフレットを配布し、現在の姿を知る。
<p>6 一人一人が学習してきたことを基に単元の課題に対する結論を考え、ワークシートに整理していく。</p> <p>○大切にしたいキーワード 厳しい自然環境、早くから工業化、公害問題、人々の努力</p>	<p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに捉えてきた知識の中で、大切にしたいキーワードをいくつか挙げさせる。 ・整理したことを基に、単元の課題に対する結論を表現させる。その際、前時までの学習で共有したキーワードや写真資料等を提示する。 ・机間指導しながら、手が止まっている生徒を支援する。
<p>7 グループにし、追究テーマに関する結論を話し合う。</p> <p>◇北九州市をはじめ、九州地方はどのような社会を目指していくと思いますか。</p>	<p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4人程度のグループを作り、一人一人が考えた結論を伝え合わせる。 ・それぞれの意見の共通点や相違点について、お互いに質問しあったり、知っていることを出し合ったりする。 ・タブレットのホワイトボードにグループの意見をまとめ可視化させることで、他のグループの意見も共有できるようにする。
<p>【評価項目】 思考・判断・表現</p> <p>○各単位時間の学習で習得してきた知識や話し合いを基に、自分なりの結論を導き表現することができる。</p> <p>(評価の方法) ワークシート・タブレット記述、発言</p>		

<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>◇エコタウン北九州の人からのメッセージを伝える。</p>	<p>7分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の発言を基に単元の課題の結論を整理してまとめる。 遠く離れた群馬県に暮らす自分たちにも環境に関してできることがないか考えるきっかけにしていきたい。
<p>5 振り返りをする。</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最後に本時の学習や単元全体を通しての振り返りの時間を設けることで、自分の生活とのつながりや違いについて考えられるようにする。

6. 板書計画

